

週刊エコノミスト

5/31
2011

災害と不動産

さらば湾岸・高層マンション
不動産価値のコペルニクス的転回

耐震度決める「建物・施工精度・地盤」

住まいの耐震度チェックリスト20

液状化被害を分けた「基礎」の形式

被災した時の経済的問題解決Q&A

マンション建て替えは? / 売り主に賠償請求できる? / 土地境界動いたら…

需給弱含む首都圏投資マンション

外国人が懸念する収益還元価値低下

J-REITスパイラル転落の現実味

iPad登場から1年

電子書籍の「その後」

IMF専務理事逮捕の衝撃度

マイクロソフトのスカイプ買収

エコノミスト
危機を乗り越えるためのIR

毎日新聞社
定価600円

住まいの耐震度チェック

小野 信一

(株)エコノミスト・アドバイス監修会員

建物と施工精度と地盤 耐震性の強弱を決める3要素

突然の災害で大切な住まいを失わないためにも、日々からの備え

3月11日に発生した東日本大震

大震災が生む点火。しかも「内陸直下震」は断層に因縁をもつ日本的一大震でもある。

震度は8強ともいわれるが、これが何を意味するか、その原因は、その後の震度を含めて震度に多くの建物被害が生じた。5月13日、

時計での警報は震度6強の本震。その後は、余震が8.7-8.9、半強3万弱4.9-5.1、一部被災は25万6千戸といふのがその数字である。1995年の阪神大震災では、全壊10万弱9.0-6.1、半壊14万4千戸、一部被災は29万5千戸、半壊3万弱4.9-5.1、一部被災は25万6千戸といふのがその数字である。マクチャード7-3の阪神大震災と比較すると被災は相対的に多いようにみえる。これは今

の東日本大震災が「複数震」と言われる地震現象に対する警戒である。

一方で、阪神大震災は「内陸直下震」であり震源を東北地方にさかのこす阪神淡路大震災では、震源がタグローラブアードで、これは、震源による震度が大きい。千葉県の南沖の漸進化した間隙震源、そして南北に延びる地帯の間隙が急に運動を始める。震度の状況が想定は難しく、それが震度だといつてよい。

まずは自分の目で

建物のチェックを

耐震性は、大きさの3つの要因に起因する。1つ目は設計による建物本

体の強度、2つ目は建築時の施工品質、3つ目はその後の維持メンテナンス状況。そこで3つ目の要因の地盤の状況が、どれだけどの程度の耐震性に影響を及ぼすかとなる。

震源の折伏震では、被災地は震波の影響が最も大きくなるため、建物の被害が大きい。これは、震源による震度が大きい。千葉県や東北地方では、市街地や遠隔地で被災被害は甚大だ。特に、省令外にある

の建物をチェックすること。

建物がある20年目はチェックリスト

で、しっかりと確認しておきたい。マ

ンションの場合には、定期検査時に性に因る3つの要因を守らなければならぬ。震度は3度あるが、すべて危険な程度の可能性があるものばかり

で、しっかりと確認しておきたい。マ

ンションは、一般的に定期検査が実施されるが、定期的に行なわれるため、基

本の木造住宅は定期検査プログラムが

定期的に行なわれる。

木材で、表面は剥がれ約30%の正方

形の柱が立派に見える限り、基

礎や基礎などにクラックが入らなければ、古くは定期的な修理が充実してお

る。開口部は、壁から1寸半を離れて

内面ドアの開閉の不均一、床

板が剥がれたり、床面に浮き出たり、基

礎や壁にクラックが入るなどの

外れ、外サッパ等が開けられたままになっ

た。開口部は、壁から1寸半を離れて

内面ドアの開閉の不均一、床

板が剥がれたり、床面